



晴天の心

立教 187年5月号
大阪府富田林市寿町 4-9-10
URL:www.tomiishi.net
TEL:0721-23-3466 090-5243-4669



月次祭 5月19日(日) 午前10時～
婦人会例会 5月9日(木) 午前10時～



春が短くなったように思いませんか？

年々春と秋の過ごしやすい季節が短くなったと思うのは私だけでしょうか？ 4月18日の教祖誕生祭くらいまで桜が楽しめたように思えたのですが、ほぼ今日(4月17日)の時点で葉桜になっています。

石川分教会の門前にはしだれ桜があるのですが、この桜はやはり遅咲きなので、この時期楽しめるのですが、今年はすでに満

開で見頃を過ぎてしまったようです。今日の気温は27度とすでに夏日。あの気持ちのよい春という季節はどこへ行ってしまったんでしょう。

今教会の庭は花盛り。サクランボの花が咲き、シランや花菖蒲、アヤメ、タンポポも満開・・・背の低い花たちが咲き乱れています。これほど見事にきれいに咲いていると、草刈り機で切れないんですよね。こうなると時間をかけて手で雑草だけを引かないと。この花が咲くまでに一度、草刈り機でざっと切ったので花畑になっているといえます。ちょっとした手入れをすることで、きれいに咲くことが出来る。人も同じなのかもしれません。何か新しいことを始めるには、踏み出す勇気が必要です。自分で踏み出せる人もいれば、ちょっとだけ誰かに背を押されることで、半歩でも一歩でも動き出せることが出来る時があります。教会は、その半歩でも一歩でも踏み出すための心の支えになればと思います。どうぞ苦しいとき悩んだとき愚痴りたいとき吐き出してください。LINEでも、メールでも電話でも受け付けます。聞かせてもらうのも因縁です。

出直しという教え

「天理教では、人は死んだらどうなると教えられているのですか」
これは、先日、「にをいがけ」先で知り合った年配の方から受けた質問です。
そこで私は、

「人が死ぬということは、親神様(おやがみさま)からお借りしている身体が老いたり、病気などで生きられなくなった時に身体をお返しすることで、ちょうど古くなった着物を脱いで新しい着物と換えるように、また新しい身体をお借りしてこの世に生まれ替わって来るのです。だから天理教では、死ぬのではなく「出直し」をするのだと教えられています」と説明しました。すると、その人からは、

「ああ、それは輪廻転生(りんねてんしょう)ということですね」と、変に納得したような言葉が返ってきました。

輪廻とはもともと仏教の思想で、辞書によると「車輪が回転してきわまりないように、

衆生（しゅじょう：いのちあるもの）が三界六道（さんかいりくどう）に迷いの生死を重ねてとどまることのないこと。迷いの世界を生きかわり死にかかわること」と説明されています。「三界」とは、欲界（よくかい）・色界（しきかい）・無色界（むしきかい）、「六道」とは、地獄（じごく）・餓鬼（がき）・畜生（ちくしょう）・修羅（しゅら）・人間（にんげん）・天（てん）の六つの迷界（めいかい）で、人は、生まれ替わりを繰り返しながら、自らの善悪の業（ごう）によってこの各界を行ったり来たり永遠にぐるぐる回っているという重苦しい考え方です。

そこで私は、答えました。

「いえいえ、輪廻転生とは違います。人は死んでからは、地獄にも極楽にも天国にも行きません。この世からこの世へ生まれ替わる。ただそれだけです。」と、説明すると大変驚かれました。

すると次に、「では、死んだ後に行くあの世の様子は、どのように教えられているのですか」と、聞いてきました。

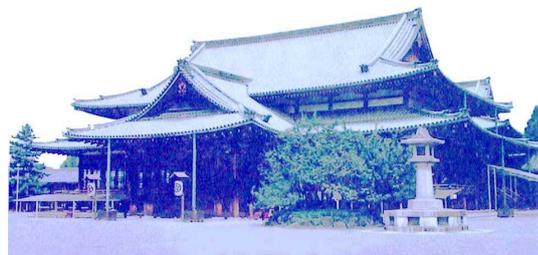
それに対しては、

「借り物の身体をお返しすると、次に生まれ替わるまでの間は、魂は、親神様が抱きしめてくださっていると教えていただきます」

と話すと、よくありがちな霊界の話に期待していたのでしょうか、拍子抜けしたような顔をしていました。そこで私はさらに次のように付け加えました。

「つまり、天理教の教えでは、世界はこの世一つだけで、あの世というような異世界はないということです。何回生まれ替わってもステージはこの世だけで、この現実世界でいかに心豊かにしっかりと生きるかということが最も大切な問題なのです」

そこまでお話しして、やっと理解していただけたようで、出直しという教えは現実的で、それでいて何だか前向きでいいですねと感心していただきました。



元のいんねん

では、生まれ替わるということはどういうことなのか。

少し難しい話になりますが考えてみたいと思います。

『天理教教典』第三章「元の理」のお話によると、そもそも親神様がこの世と人間を創造されたのは、子どもである人間をつくって、その人間たちが「陽気ぐらし」をするのを見て親神様も共に楽しみたいと思いつかれたからで、親神様のご守護によって最初に産みおろされた人間は、五分（約 1.5 センチ）というごく小さい生命体から始まり、三度の出直しと、八千八度（はっせんやたび）の生まれ替わりを繰り返して進化し、その間、世界が形成されるに従って水中の生活から陸上の生活をするようになります。

さらに親神様が知恵と文字を仕込まれると、そこから文明が生まれて人間は現在の姿になるまで成人しました。その間、九億九万九千九百九十九年ということですからおよそ十億年以上、私たちは気の遠くなるような回数 of 生まれ替わりを繰り返してきた末に、今この時に生まれつきました。そして、元初まり以来の陽気ぐらしへの歩みは今も続いているのです。

このことから『天理教教典』には、人間には、陽気ぐらしをさせたいという親神の思いが込められている。これが、人間の元の「いんねん」である。と書かれています。

いんねんとは？

「いんねん」とは、辞書によると「原因・理由」という意味です。

「元のいんねん」とは、人間がこの世に存在するもとの原因・理由が陽気ぐらしにあることを示しています。

このように私たちは、生まれ替わりを繰り返しながらさまざまな時代を生き抜いてきた

ということですから、それぞれの魂は、歩んできた過去の遍歴や繋がりを持っています。これを「前生（ぜんしょう）のいんねん」と言います。

親神様は、「前生のいんねん寄せて守護する」というお言葉で、今生（こんせい）において夫婦となるのも親子となるのもすべて前生のいんねんによって成るのだと教えられています。

また、私たちは、前生において良いことをたくさんしてきたでしょうし、逆に親神様の陽気ぐらしの思いを知らなかったばかりに、「ほこり」を積み上げ、わがまま勝手なことをして生きてきたこともきっとあったはずです。

しかし、前生の記憶はありませんから、自分で振り返って思い出すことはできません。

前生のことを覚えていたのではお互いにいろいろと不都合なことがあるので見えないようにしてくださっているというようなことも聞かせていただきます。

今生の人間関係に支障のないように親神様がわざわざ見えないようにしてくださっているのだと思いますから、見えなくて良いのです。

ですが、その一方で、次のようにも聞かせていただきます。

いんねんと言うて分かるまい。皆これ世界は鏡、皆人間生れ更わり、出更わりしても、心通り皆身に映してあるから、よく聞き分け。『おさしづ』 明治21年2月15日

このお言葉の意味は、いんねんといっても人間には、記憶のないことは分からないだろうから、前生に使ってきた心通りの姿を生れ替わっても鏡のようにそれぞれの身に映してあるから、見せられる事柄から判断して悟るよにとの思召（おぼしめし）です。

お道の先人のお話によると、

15才より今までしてきたことは良き事も悪き事も皆いんねんとなって今生か来生で必ず現れる。良きいんねんは、皆が喜ぶことであるのですぐと現し、すぐと返してくださるが、悪きいんねんは、できるだけ先のばしにしてくださるというように聞かせていただきます。『正文遺韻抄』 221 ページ

今生は前生の続きであり、今生は来生へと繋がっています。

ですから、私たちの一日一日の心遣いや通り方が、今の生涯だけでなく先の来生未来へ繋がっていることを自覚して今の一日を大切に責任ある生き方をすることが肝心なのです。こうして考えてみると親神様がいんねんを現されるのは、厳しい罰のように思ってしまうがちですが、そうではありません。

『天理教教典』には次のように書かれています。

親神が、種々（いろ／＼）といんねんを見せられるのは、それによつて人々の心を入れ替えさせ、或いは勇ませて、陽気ぐらしをさせたい、との篤い親心からであつて、好ましからぬいんねんを見せられる場合でさえ、決して、苦しめよう困らせよとの思召からではない。いかなる中も、善きに導かれる親心にもたれ、心を治めて通るならば、すべては、陽気ぐらしの元のいんねんに復元されて、限りない親神の恵は身に遍く、心は益々明るく勇んで来る。 71 ページ



私たちが人生を歩む中には、さまざまな困難や苦勞に直面することがあります。

しかし、どんな境遇になろうとも、現れてくることに自分のいんねんと親神様のお導きを察して、現実の中に感謝と喜びを見出して前向きに生きることが、状況を打開する唯一の道だとお教えくださっています。そして、この心の持ち方を「たんのう」と教えられます。

「自分一人の心さい定めるなら」
さあ人が何事言おうとも
自分一人の心さい定めるなら

今日の
おやのことば



おさしづ 明治20年11月22日

先日、録画した自分の講義を、1時間ほど見直す機会がありました。教壇に立つようになった最初のころは、よく自分の授業を録音して、あとで内容を聞き直していました。それでも、ビデオでしっかり撮影された自分の姿を見ながら、自分の話を聞くのは初めての経験です。

中学生のころ、ようやく手に入れたテープレコーダーを使って録音した自分の声を聞いたときは、再生される声に違和感を覚えて、とても自分の声のように感じられませんでした。

いま目の前に映し出されている自分の姿にも、やはり違和感を覚えます。

それでも今回は、画面に映る自分の姿や声を、それなりに受け入れることができました。

「さあ人が何事言おうとも自分一人の心さい定めるなら」

年齢を重ねることで、理想の自分のイメージと現実の自分の姿の間にあるギャップが、少し埋まってきたのでしょうか。単に、神経がずぶとくなっただけなのかもしれません。

ただ、今回の映像は、20年近くコツコツ研究を積み重ねてきた内容を初めて発表したときのもので、言葉の端々にうれしさがにじみ出ているのがよく分かります。白髪の交じったひげ面に愛おしさを感じるのは、きっとそのせいでしょう。いつも、どんなときも、自分の姿を素直に認められるような自分へと育てたいものです。(岡)

4月29日(祝/月) 全教一斉ひのきしんデー

どうぞ、お住まいの近くの会場にご参加ください。

私は、富田林市民会館横にある粟ヶ池共園の会場に行きます。

もし会場に行けない方は、自宅周辺での清掃ひのきしんを行ってみてください。

ちょっとしたひのきしんでも、周囲の人にとって綺麗になることは喜ばれることだと思います。喜びの種をまくことも陽気ぐらしへと向かう一つの大事なことです。

1ページ目のQRコードから教区支部情報ネットで会場を見つけることができます。



災害救援ひのきしん活動動画

「令和6年能登半島地震」災救隊本部隊 新たな宿営地で救援活動を展開

【さだまさしさん】奥能登で…「寂しいか～お金はあるか～」歌声で被災地を応援



様々な形での支援活動が展開されています。直接ひのきしん(ボランティア)に出かけなくとも支援されている方を支えることは出来ます。災害救援ひのきしん隊への募金支援や、さだまさしさんの「風に立つライオン基金」[「https://lion.or.jp/index.html」](https://lion.or.jp/index.html)への募金や関連グッズ購入を行うことでの支援活動など、よく見ると自分すぐ近くに自分で出来ることがあると思います。一人で出来ることは微力だけど、その微力が集まって協力すれば強力な力になると思います。どうぞ少し心のアンテナを高く張って支援の輪に参加しましょう。ただし、ネットなどで支援する際には、その団体がきちんと活動しているのかどうかを確認して自分の願いが無駄にならないようにしましょう。